

舞鶴から元気を発信！

近畿地協 2026 学習交流会に全国から 32 名

金融労連近畿地協「近畿のなかま」から



金融労連近畿地協は、3月7日(土)～8日(日)、京都府舞鶴市の商工観光センターで『近畿地協 2026学習交流会』を開催し、関東、北陸、近畿、中国四国など全国各地から32名の仲間が参加しました。

翌日は、希望者による『舞鶴引揚記念館』を見学し、平和学習を実施しました。

グループディスカッション

後藤副議長の司会進行により始まり、冒頭、岡野議長から挨拶があり、阿部事務局長による問題提起後、分散会を開催しました。

分散会は4班に分かれて、実施しました。グループディスカッションにより、お互い悩みを出し合い、解決していく形式で行いました。

女性だけの10名の班は初めてで、「女性のつどいをやっている雰囲気がある」との感想もありました。

若者との交流

近畿地協では1月の常任幹事会から、「若い仲間の参加が少ない」「参加メンバーが固定化している」等々、さまざまな意見が出され、これまでのつながりを生かして岡野議長を筆頭に、他の

地協などにも積極的な参加を呼びかけてきました。

その結果、今回、初めて舞鶴での開催が実現し、全国から多数の若者との交流が実現できました。

分散会で貴重な生の声

4つの班に分かれて行われた分散会では、関東地協、中国四国地協と近畿地協2名の座長により進行し、たくさんの思いや悩みなども出されました。今後の組合活動にとっても貴重な財産として活かせると思います。

全体会

分散会報告がそれぞれの班から行われました。「細かいことでも意見を伝えられる環境に」「賃上げについては粘り強くたたかっていく」「人員不足で休憩がとりにくい」「組合活動になかなか集まってくれない」など報告がありました。地協報告は中国四国、関東、北陸、近畿からそれぞれ報告があり、「金融庁検査をきっかけにパワハラが解消された」との意見もありました。

最後に近畿地協・松島事務局次長が閉会の挨拶と団結ガンバローを行い、再会を約束してこの日の学習交流会を終了しました。

舞鶴で初めての懇親会を満喫

懇親会は近畿地協・野村常任幹事の進行で、各地協の自己紹介など行い、楽しく歓談しました。関東、北陸、近畿、中国四国などから仲間が参加し、「舞鶴であることを忘れてしまう」との声も出しました。

感想文より

●分散会・全体会について

- 他金庫の実情と自金庫の違いを今後の交渉につなげたい。
- テーマを特に設けていなかったのが組合費の話や女性に執行委員になってもらう工夫をどのようにしているのかなど普段の会議では聞けないような話も聞けてよかったです。

○ 他の金融機関の話がたくさん聞くことができ、とてもいい分散会でした。当庫の取り組みを提案し、やっている金融機関もあるので、ぜひうちの会社もと意見が言えていけば良いと思います。

○ 各組合の活動内容、要求内容、様々な事を教えていただき、今後の参考になりました。

○ 規模感(職場・組合)の違いが大きくあり、組合の体制(女性の委員、意見の取り上げ方など)の違いがあり、参考になった。今後の参考でいいことは執行部からの働きかけ、組合員主体でなく、執行部が組合を引っ張っていかないといけないこと。要求、交渉のあきらめはダメ!⇒つらいこと、苦しいことは伝える。

○ 勤務する金融機関の内情や地域性の違いはありますが、労働者としての悩みや組合の運営について勉強になりました。

○ 少人数でもあり、各自積極的に発言ができて良かったと思います。座長の野村さんの仕切りも完璧でした。お疲れ様でした。

○ 人数もちょうど適度な人数で意見交換がしやすかった。

○ 分散会では意見交換がよかった。今後はテーマを決めて集中的に意見交換するのも良いのでは。

○ 初めてお会いする金融機関の方たちとの交流でとてもいい時間になりました。同じような悩みを抱えておられるところも多く、いつかの悩みも解決できる日が来ればなと思いました。

○ 他の組合の方のお話を聞いて、やはりどの組合でも人員が足りないのは共通なんだと感じました。また、最近ではパートの方が休職に入ったり、渉外の方のキャパオーバーでしわ寄せにあう先輩を見ているので、カバーに入っている人を評価してくれる制度はぜひこちらにも欲しいと考えました。

○ 他の信金さんでもいろいろな悩みがあることが分かってよかったです。後輩の指導に悩んでいたのが解決策などが出てスッキリしました。組合ではなかなか言いづらい話題もあるのでこの機会に言えて良かったです。どの信金さんも

人員不足に悩まされているので、信用金庫の業界として考えるべき話題だと思いました。

○ こうした分散会でしか共有できないこともあり、とても有意義な会でした。多くの地協、単組の参加でもっとにぎやかになるといいと思いました。

○ 各単組の職場状況などをグループディスカッションで聞くことができ、とても有意義であった。どうすれば組合活動の人を集められるかを悩んでいる単組が多く、団結して取り組んでいきたいと感じた。

○ 他金庫の制度について非常に参考になりました。特に副業制度はよく理解できました。皆、同じ悩みを抱いており、改善のヒントをもう少し掘り下げたかったと感じました。

○ 女性の参加が多く、女性だけの分散会で現場の問題などが話すことができた。要求に入れていく問題も多かった。具体的な問題が聞けて大変学習できた。

○ どの金融機関でも人手不足による問題が多く存在している。人手不足を解消するためには仕組み作りからしてかなければならない。昼休み休業の導入、予約制、意図しない休暇のフォローに入る人に手当、解消できなくても仕事にならない仕事をしている人を評価する仕組み。時間と手当、役職は裏切らない。やらなければいけないことであれば、そのことも評価してほしい。教わる側の態度が良くないケースも最近が多い？

○ 人数の少ない支店の運営の苦労と工夫を聞くことが出来た。予約制を取り入れていくのも一つの案だと思う。指導や休暇取得者の仕事を受け持つ側への手当があれば、指導側も、仕事を受ける側も納得する。名もなき仕事も認め、評価すべき。全店の事務の共有の場を実施。本部の人に聞きにくいことなど、日ごろの悩みや疑問に思っていることを解決する。

○ 他の組合での職場の現状、組合について聞けて有意義な時間でした。

○ それぞれの組織や職場での状況が違っていても、同じ悩みを抱えているということが初めての参加で知ることが出来て良かった。

○ 各金融機関の諸問題等を聞き、非常に参考になりました。(職場状況) 営業手当、ベースアップ、パワハラ、ノルマ等色々聞き、組合として経営者の考えとの違いを生の意見が聞けて勉強になりました。

○ 女性だけのグループで「女性のつどい」をやっている雰囲気があり、多くの意見が出ました。男女一緒だと話しにくい方もいるかと思います。今回は京都北都、砺波の方も参加してくれたので女性グループが出来、大変有意義な時間でした。

○ 他金庫の現状等色々な思い、苦労話が知れて、今の自分の環境がどうなのかとイメージ出来た。(金融労連近畿地協「近畿のなかま」No90 から)